

EV スクーター E1

取扱説明書

この度はEVスクーター E1をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

●取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

EV Scooteir E1

[1] はじめに

EVスクーター E1にお乗りいただく前に、本取扱説明書を良くお読みください。
この取扱説明書に記載されている警告と注意事項をお守りいただくことにより、安全に製品をご利用いただけます。
ご不明な点がございましたら、購入店舗、または正規代理店アフターサービスまでご連絡ください。

- 1.本製品の基本的操作法とLEDディスプレイの使用法を十分ご理解ください。
- 2.安全な乗車を心がけ、より楽しく安全にご使用ください。
- 3.本製品の構造、メンテナンス方法を理解して長くお楽しみください。
- 4.取扱説明書は、お手元に保管してください。

[2] 運転免許について

- ・本車両を一般公道で運転するには、運転免許証（普通自動車もしくは原付免許）が必要です。ご自身の免許証で運転できるか確認してください。
- ・本車両は第一種原動機付自転車です。
- ・本車両の乗車定員は運転者のみの1名です。

[3] EVスクーターについて

① 道路交通法上の取り扱い

- ・本車両「EVスクーター E1」は道路交通法上、原動機付自転車に分類されます。従って運転の際は免許証の携帯、ヘルメットの装着が必要です。本車両は、第一種原動機付自転車です。公道を走行するにあたっては、移住地の役所（市役所もしくは区役所等）でナンバープレートを取得する必要があります。

② ナンバープレートの取得

- ・第一種原動機付自転車のナンバープレートは、各役所の税金関係の窓口※にて交付されます。
交付にあたり必要な書類等は以下の通りです。

〈必要な書類〉

- ・軽自動車税申告（報告）書兼標識交付申請書（各役所のHPを参照）
- ・販売証明書（当社で発行いたします）
- ・取り扱い説明書
- ・ご購入者の印鑑
- ・本人確認資料（運転免許証、保険証、マイナンバーカード、パスポートなど）

※税金関係窓口は各役所で窓口の課が異なりますので、事前に各役所のWEBサイトで確認してください。

③ 自動車損害賠償責任保険への加入

- ・EVスクーター E1を運転する際には、自動車損害賠償責任保険（通称：自賠責保険）への加入が法令で定められています。必ず加入してください。

[4] 製品概要

④ 原動機付自転車として必要な法令準守

- ・運転する際には、道路交通法によってヘルメットの着用、ヘッドライトの点灯が義務付けられています。
- ・本車両に運転者以外の人を乗せることは、道路交通法によって禁止されています。また法廷最高速度は30kmです。
- ・自動車損害賠償責任保険（通称：自賠責保険）への加入が法令で定められています。運転を始める前に必ず加入してください。
- ・排気量50cc以下の第一種原動機付自転車は、通行帯が3車線（片側、一方通行とも）以上ある道路の交差点を右折する場合に「二段階右折」という右折方法を取ることが義務付けられています。詳細は該当する法令をご確認ください。
- ・違法改造は法令により禁止されています。改造により操縦安定性や走行性能が悪化し、車両寿命を縮め重大な事故や故障の原因にもなります。

EVスクーター E1は小型の個人向けスクーターであり、軽量構造デザインと、リチウム電池パワーにより快適な乗り心地を実現します。



[5] EVスクーターE1の使い方

■基本的な使い方

全体的な確認:

定期的にボルトとナットが緩んでいないか確認してください。緩んでいたら、すぐにしっかりとしてください。

ブレーキの確認:

ブレーキの動作状況と原則を開始時に確認してください。

スピードメーターの確認:

スロットルを回した際にメーターが動いているか確認ください。

両サイドのハンドルの確認:

両手で両ハンドルを握り、前後に揺れないか確認してください。

折りたたみボールの留め具の確認:

折り畳みの留め具がしっかりと固定されていることを確認し、その周りにボルトとナットが緩んでいないか確認してください。

充電の確認:

赤いライトの点灯は充電中、緑のライトの点灯は充電が完了したことを表示しています。

■ はじめに

鍵を挿入し、右に回し電源をオンにします。LEDディスプレイが起動し、しっかりと座った後、加速ハンドルを回し起動します。乗る前に足置きが適切な状態であることを確認してください。

■ ブレーキの使い方

ブレーキを引くことでスクーターにブレーキをかけます。

ユーザーによって使用感に個人差があります。ご自身で感度を調整してください。

急なブレーキは危険ですのでご注意ください。

■ 電池のメンテナンス方法

①バッテリーを完全に充電しておくことで、バッテリーの寿命を延ばすことができます。充電せずに長い間放置すると、バッテリーの過放電や再充電できなくなる原因になります。

②バッテリーは気温差や湿度によって製品の内部の圧縮や配列の原因となりますので、バッテリーが完全に乾いた状態で充電してください。

③夏の直射日光が当たる屋外でバッテリーを長期露出することはバッテリーの温度上昇、破損の原因になります。バッテリーは高温多湿を避け、気温と湿度が低い環境で保管してください。特に夏の夏の高温多湿時期はご注意ください。

④製品には一定の防水機能(IP5)がありますが、安全のため雨の日の乗車は避けてください。

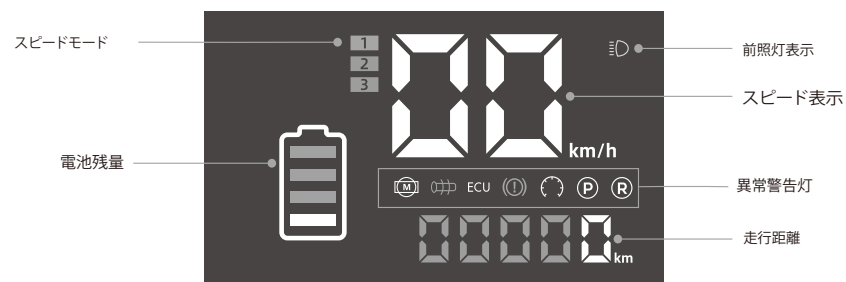
もし乗車中に雨が降ったり、水分がかかってしまった場合は、バッテリーのカバーを開け、中の水分を拭き取ってください。

[6] ディスプレイの表示



①最初に電源を入ると、累積距離が現在の走行距離として表示され、再起動するとゼロになります。

②警告サインが異常値になっている場合はカスタマーセンターにご連絡ください。



① ブレーキ作動



※輸送時の破損防止のため、製品の部品の一部は取り付けられていません。
ご使用になる前に、マニュアルに記載されている取り付け手順に従って、パーツを組み立てる必要があります。

[8] ヘッドライトの組み立て方

[7] ディスプレイの組み立て方



① 4つのネジを外します。



② 全てのネジが外れた状態です。



③ ディスプレイボードを図のように設置し、ネジ穴の位置を合わせてネジで締めます。



① ディスプレイボードワイヤーと電源コードを接続します。



① 図のように、ヘッドライトと取り付け金具をネジで留めます。



② 本製品に付いているボルトのネジを外します。



③ 本製品とヘッドライトを②で外したネジで固定します。

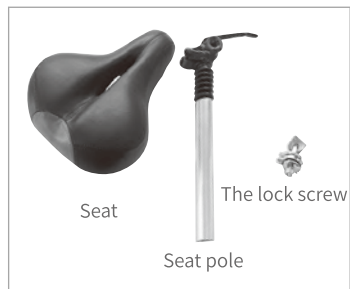


④ ヘッドランプのコードと電源コードを接続します。

[9] サドルの組み立て方



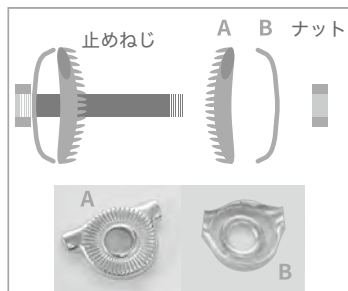
- ① サドルの両側のナットを緩め、サドルレバーと分ける。



- ② 分解した状態です。



- ③ レバー部分を先にシートの後ろに入れると、レバーとシートの固定が容易になります。



- ④ 図を見ながら A B の部品を以後の指示通り、再度取り付けてください。



- ⑤ 上の図のように部品 A を内側に置き、ネジ穴を合わせて止めねじを挿入する



- ⑥ 部品 A に部品 B を被せてナットで固定し、反対側も同様に固定します。



- ⑦ ナットで固定した図です。左右同時にナットを固定してください。

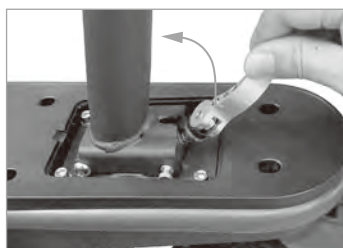


- ⑧ 図の折り畳み式ロックを一度開き、再度ロックをかけてください。

[10] サドルポスト固定方法



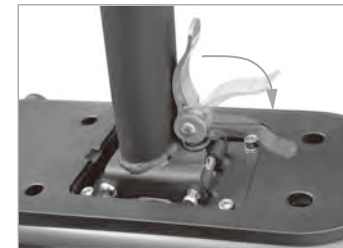
- ① 折り畳み式ロックをつかみ、横に押してロックを持ち上げます。



- ② ポールを垂直に立てた後、ポールの方に折りたたみ式のロックをかけます。



- ⑨ 組み立てたセンターポールをセットロッドにセットし再度ロックをかけて固定してください。

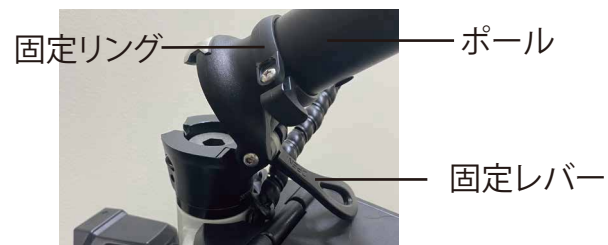


- ⑩ 折り畳み式ロックを写真のように配置した後、下に押し倒して固定します（乗る前に固定されているか確認してください）。



こちらのパーツは、使用いたしません。

[11] ポールの固定方法



① ポールを真っ直ぐに立てます。



② ポールを真っ直ぐに立てた後固定レバーを上へ引き上げます(その時本体とポールがしっかり止まっていることを確認してください)

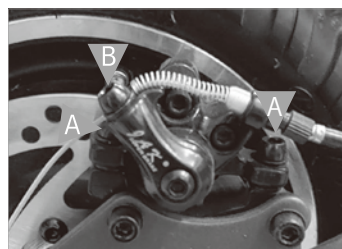


③ 固定リングを回し固定レバーが下におりない事を確認してください。もし固定リングがゆるい場合は、プラスドライバーを使って締めるようにして下さい。固定リングがゆるくて走行中にハンドル倒れた場合事故につながる恐れがあります。

[12] ブレーキノイズ調整方法



① 構成は写真の通りです。



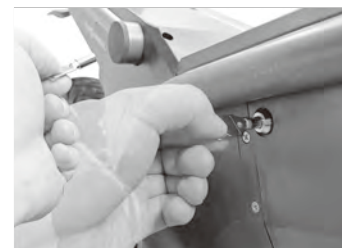
② 最先端の鋼線とボルトAとBを緩め、ガスケット調整し、ゆっくりと締めなおします。



③ 別の方法としては、キャリパーを分解し5mmの六角レンチで背面のネジを緩めてマット間の距離を調整することです。

※ 基本ブレーキの調整はお近くの自転車屋さんにて見てもらうことをお勧めします。

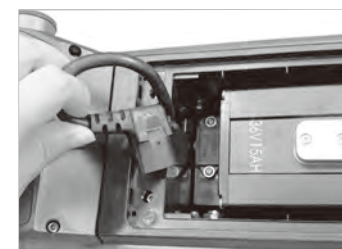
[13] バッテリーの着脱方法



① 専用の鍵で、本体のバッテリーのカバーの開閉をします。



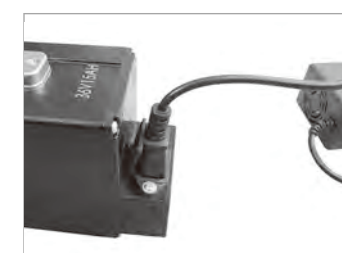
② リフティングリングの上端を引っ張って持ち上げます。



③ バッテリーを外すためにプラグを抜いてください。(バッテリーの電源がオフの時に取り外してください)



④ バッテリー上部のハンドルを握り、持ち上げます



⑤ バッテリーソケットを開き、充電します



⑥ バッテリーの取り付け：製品の上部にバッテリーを置き、コードを接続します。そして、バッテリーをバッテリーケースの中に入れてください。

[14] 充電方法



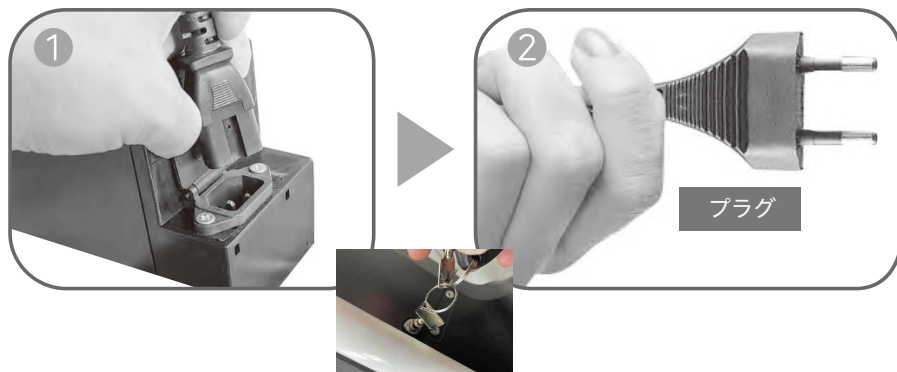
充電時のショートを防ぐため、スクーターに充電ケーブルを接続してから、コンセントに差し込んでください。



本体右にある充電ソケットの蓋をあけ
充電ケーブルを差し込んでください、

- 充電器がマザーボードのソケットに接続されているか確認してください。
- 充電アダプタのランプが赤であれば充電中、緑であれば充電が終了していることを示しています。
- 充電器を外すときは、まずコンセントからコードを抜き、その後充電ソケットから充電器のプラグを外してください。

バッテリーを外しても充電することが出来ます



[15] 注意警告



取り扱いを謝った場合、死亡または重大な損害を生じる可能性があります。

- 運転中、ハンドルから手を離したり、フットレストから足を離したりしないでください。バランスを失ったり転倒を引き起こすおそれがあります。
- ヘルメットを必ず着用してください。
- 運転に適した服装を心がけてください。ジャケットやコート、ゆったりとした服装は運転操作の邪魔になります。
- 雨の日や風の強い日は、スピードを抑え慎重にブレーキをかけながら運転してください。
- 急ブレーキや急なモード変更は避けてください。横滑りや転倒のおそれがあります。
- 前方および側方の車両との距離を十分保ってください。車間距離が短いと衝突のおそれがあります。
- 走行中、メーターやスイッチを注視しながら運転しないでください。
- 走行中はキーの操作は行わないでください。
- サドルは正しい位置にきつく締めて固定してください。運転に支障をきたすおそれがあります。
- 電源が入っている状態で点検を行わないでください。
- 走行して点検する場合は、通常より速度を落とし、交通量の少ない場所で行ってください。
- 停車や整備する場合、平坦で足場のしっかりした場所に止めてください。不安定な場所に止めると、転倒し事故やケガの原因となるおそれがあります。



車体番号位置